

インターンシップ（就業体験）

奈良県立王寺工業高等学校

学校の概要

学校規模

学級数：15学級

生徒数：522名

教職員数：67名

体験活動の観点からみた学校環境

本校は大和平野の中間，西部に位置する工業高校で，電子機械科（2），電気科（1），科学技術科（2）の3科5クラスの県内において中規模とされる工業高校である。特徴として圧倒的に男子生徒が多く（全生徒522名中，女子生徒5名），また，就職希望者は63%を占めている。

奈良県は国宝・重要文化財指定件数が全国3位を誇る観光県である。県内企業が少ないため，近接する大阪府等への就業者数が極めて多く，そのため県外就業率については全国第1位である。

求人件数は年々減少し，現在本校での県内求人件数は150社，県外求人件数も同じく150社である。卒業後の就職場所としては県内企業が全体の65%を占めている。

連絡先

〒636-0012

奈良県北葛城郡王寺町本町3-6-1

電話：0745-72-4081

FAX：0745-32-9878

ホームページ：http://www.oji-ths.ed.jp/

電子メール：master@oji-ths.ed.jp

体験活動の概要

活動のねらい

経済情勢の変化に伴い，就職状況が一段と厳しくなる上に，就職に対する理解と認識の不足などが重なり，就職後早期に離職する生徒が増加している。このために体験活動を通して就労意識の向上を図り，的確な職業選択ができる能力を養う。

活動内容・方法（位置付け・期間等）

第2学年 全科 希望生徒対象

過去3年の受入企業数と参加人数

平成11年度 14社 46名

平成12年度 52社 138名

平成13年度 57社 128名

体験期間：5日間

体験時期：12月中旬

就業体験活動であり，県内企業を中心に正社員と同じ時間帯，就業内容で実施する。

学校設定教科「フロンティア」

科目「体験活動」

体制等工夫

工業高校の特徴を生かすべく，IT機器や技術を最大限に活用して最小限の労力と最大限の実施効果をねらう。

活動の成果等

就職試験の内定率が高まった。

生徒の進路に対する意識が高まった。

企業と学校との信頼関係が深まった。

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

- ア 自己の進路や職業に関する関心を高めるとともに勤労観，職業観を育成する。
- イ 仕事の内容等を含め自分の進路を考える資料とする。
- ウ 企業での仕事を通して現場の厳しさ，役割分担の重大さ，責任感，あいさつ，言葉づかいの大切さや達成感等を体得させ，併せて学習意欲を喚起向上させる。

(2) 全体の指導計画

ア 活動の名称

「Catch Your Dream」

生徒それぞれの自己実現と適性に合った進路選択に意欲をもたせ，より早い時期から夢の実現に向けて行動することを期待して設定した。

イ 実施対象者

第2学年希望者

ウ 活動内容

卒業生が就職している企業はもちろん，本校の学科内容とは全く異なった職種の企業にも依頼し，1社当たり2～3名の生徒が社員同様の就業を体験する。

エ 教育課程上の位置付け

上記に示した活動のねらいがより効果的に達成できるように学習の計画を立てている。第1学年で実施する総合的な学習の時間で個性を伸ばし，第2学年の会社見学に続き，インターンシップ，その上で第3学年で生徒自らが目標を立て「ものづくり」を体験する課題研究へと一連の流れのもとに，個々に応じた職業観を育てることを主眼としている。

第2学年のインターンシップ「Catch Your Dream」は，学校設定教科「フロンティア」科目「体験活動」として2単位を設定している。

オ 評価について

企業から提出された評価表をもとに活動の様子，就業意欲，項目別の評価をみる。また本人が提出した体験報告書，感想文等から総合的に判断し単位を認定する。この場合，評定はしない。

カ 単位認定について

単位の認定は，インターンシップ推進委員会によって，企業からの評価書，体験報告書，感想文などを総合的に評価し，成績会議（職員会議）を経て校長が認定する。

キ 実施時期（日数や時間数）

（ア）時期及び日数：12月中旬の5日間

（イ）時間数（50分を1単位時間としている。）

企業での就業時間（休憩時間も就業時間を含める。）	54単位時間
企業との打合せ	3単位時間
事前指導（ホームルーム・体験発表等）	5単位時間
企業研究（就業場所の研究，企業の内容説明等）	3単位時間
報告書の整理と企業への礼状の作成	3単位時間
感想文の作成（ワープロの指導等）	4単位時間

* インターンシップに要する時間の合計は72単位時間となる。

ク 活動場所

生徒が通勤可能な範囲にある企業で活動する。

ケ 継続の状況等

3年目のインターンシップも終了し、参加希望者も約130人(学年の8割)と安定してきた。この間、協力頂ける企業も年々増加している。更に多くの企業に協力の依頼をして、生徒の選択幅を増やし、充実したインターンシップの実施を目指している。

2 活動の実際

(1) 事前指導

ア 目的の理解

文部科学省が配布しているインターンシップ資料「高校生のインターンシップ」及び本校の実施要項を使って体験活動の意義を理解させる。

イ 参加に向けての啓発活動

啓発活動の一環として先輩達の「就業体験」感想文集「Internship Special Report」を第2学年の生徒に配布し、体験の様子を理解させる。

ウ 「インターンシップ体験発表会」の実施

インターンシップ参加者の中から各クラス2名の発表者により、インターンシップの体験発表会を2年生対象に行う。発表者は、自分の素直な気持ち、参加する前と参加後の自分の心の変化等を伝えることで後輩達に就業体験の必要性をアピールする。

体験発表後、参加の意志を確認するためのアンケート調査を実施し、参加希望者の概数を知る。下記に平成13年度の結果を示す。

ぜひ参加したい・・・61名

参加してもいい・・・100名

参加したくない・・・24名

体験発表後87%の生徒が参加の意志を示した。

エ 参加企業希望調査

インターンシップ受入協力企業の職種・就業場所等を一覧表にして生徒に配布し、その中から自分の希望する企業を5社選び提出させる。ただし、その時希望順位はつけないようにしている。これは企業の受入可能人数に限りがあるため、希望する企業での体験が困難な場合があることや、自分にあった職種に選択の幅をもてるようにするためである。このようにして人気のある企業に生徒が偏ることなく、希望に応じて公平に参加させることができるようにしている。

オ インターンシップ打合せ事前説明会

実施の10日前に本人が受入企業を訪問し、実施内容の打合せをする。そのための事前説明会を下記の内容で指導する。

インターンシップの目的と注意事項の確認

就業日誌の書き方等についての確認

カ インターンシップ直前全体指導

実施の3日前に下記の内容について指導する。

職場での行動、言葉づかい、態度について

出欠、遅刻、事故、その他トラブルの場合などの連絡方法について

インターンシップ終了後の感想文、礼状の書き方について

(2) 活動の展開

平成13年度インターンシップ実施行程表(資料)

4 / 20 (金)	インターンシップ体験発表会(6限目第2学年学年集会) 3年生10名が発表 2年ホームルームにてインターンシップ体験発表会のアンケート実施
4 / 23 (月)	アンケート集計発表, 希望者数把握(6 / 20の予定数)
5 / 19 (土)	企業への案内文の作成
5 / 22 (火)	企業への案内文の送付
6 / 15 (金)	回答締め切り(受入企業数, 受入可能人数等の把握)
6 / 20 (水)	受け入れ企業数: 60社以上必要 受け入れ可能人数: 140名以上必要 * 60社, 140人以上に満たない場合は随時, 企業に依頼する。
6 / 21 (木)	生徒への企業紹介
9 / 6 (木) ゝ 9 / 10 (月)	各クラスでインターンシップについて説明する。 (進路指導部より説明, 1時間授業時間を説明に充てる。)
9 / 11 (火)	生徒の参加希望企業調査の実施
9 / 12 (水)	参加希望企業調査の回収
9 / 18 (火)	生徒参加企業の行き先発表(進路指導部にて調整する。)
9 / 21 (金)	保護者宛インターンシップ参加確認書配布 * 9 / 17 (月)までに提出(任意保険の加入)
11 / 28 (水)	企業との打合せ会事前指導(放課後)
11 / 29 (木)	企業との打合せ (6限目公欠扱いとし, 生徒が個々に各企業を訪問する) * 都合のつかない企業については, 後日, 打合せ会を設ける。
12 / 7 (金)	インターンシップ事前指導(放課後)
12 / 12 (水) ゝ 12 / 18 (火)	インターンシップ実施(春期休業中に行う企業もある)
12 / 21 (金)	就業体験日誌の提出
1 / 8 (月) ゝ 1 / 18 (金)	ワープロで感想文を書かせる。
1 / 23 (水)	感想文をクラス分まとめてフロッピーで進路指導部に提出
2 / 25 (月)	インターンシップ推進委員会(単位認定に関する原案作成)
3 / 8 (金)	成績会議を経て校長が単位認定する。

ア 受入企業の確保

本校では関係機関・団体に頼ることなく、独自に受入企業を確保している。県内企業に多くの卒業生が就職しており、このつながりで直接依頼している。

求人票を本校に持参した企業に、その都度直接依頼している。

その他あらゆる機会を利用して、企業に依頼している。

イ 生徒の参加企業の選択と決定

担任を通して受入体制のできている企業（内容等説明）を紹介し、希望者を募る。

生徒の受入企業の調整は、進路指導部と担任で行う。

参加企業が決定次第、保護者から参加確認書を提出してもらう。

ウ 受入れの確認

生徒の就業場所が決定したら、企業に実施確認書を送付し、実施の承諾を受け実施日程を確認する。

(3) 事後指導

インターンシップで習得したことが学校生活、家庭生活だけでなく、あらゆる場面で生かせるよう継続的に指導する。例えば礼儀作法、挨拶の励行、言葉づかい、時間厳守等、社会生活に必要な一般常識やマナーを身に付けさせる指導の充実に努める。

3 体験活動のための体制

(1) 省力化・省資源・経費節減・時間の短縮

工業高校の特徴を生かすべく、IT機器や技術を最大限に活用した。インターンシップに関する連絡及び書類は可能な限り電子メールやパソコンからのFAXを利用して、ペーパーレス化を図っている。これで経費（郵送料・出張費等）の節約と時間の短縮につながる。また、時間を選ばずに連絡が取り合えるため、細かい打合せや時間調整などが迅速に行える。その他、準備に携わる教員数が少数でよく、インターンシップの準備に携わっている教員は2名である。

(2) 事故に対する補償（保険への加入）

インターンシップの実施に当たって、生徒が受入企業に対して損害を与えた場合の補償については、インターンシップ賠償責任保険に全員加入させている。

(3) 電子メール、FAX使用の利点

(1)に記したように多くの企業への書類の発送、連絡等に電子メールやFAXを可能な限り使用している。企業にアンケート調査をし、可能であると回答があった場合、送信先を確認し、お互いが納得した上で行っている。特に、生徒たちが企業訪問する場合、日程確認を電話で行うと約100社すべてに連絡を取らなければならないが、電子メールであれば1回の送信で一斉に配信が可能である。

4 成果と課題

(1) 実施の効果

生徒の感想文から仕事をやりとげた喜びやインターンシップを通して勤労観や職業観の育成、他者からの温かい対応への感謝、挨拶の大切さ、社会の厳しさ、社会人の苦労など、体験を通すことでよりよく学習できることなど多くの効果を読みとることができた。

(2) 活気あふれる就職活動

今年度の3年生（就業体験した学年）は、4月、5月頃からすでに進学や就職等、自分の進路に対する関心を示し、進路室・進路資料閲覧室に来る生徒が、例年に比べ増加した。会社の内容、

職種等，自分の考えている進路についての相談が多くなり，5月頃から個々の会社の今年度の求人の有無を心配する生徒が増加した。また，2，3年前の求人票から自分に合う企業を探す生徒も多くなった。そのような生徒の要望に対して，企業へ問合せすることにより，求人をお願いをすることもできた。

(3) 就職試験における一次試験合格率の向上

求人数が減少している中で，一次試験合格率についてインターンシップを実施する前に比べると，次のような結果になる。

平成11年度一次試験結果（インターンシップ実施前）・・・・・・・・・・58%

平成12年度（初めてインターンシップを実施した学年46名参加）・・74%

平成13年度（インターンシップ2年目138名参加）・・・・・・・・・・74%

(4) 教員の進路に関する意識の向上

インターンシップについてのホームルームを行うことにより進路に関する意識が向上するとともに，生徒の社会に対するマナーなどについても指導が行き届いてきた。また，進路のことについて生徒たちと話す機会が増え，個人的な進路相談を受ける機会が増えた。

5 今後の取り組みの方向

3年間実施して企業側と学校側とのつながりも深まり信頼もでき，企業側のインターンシップに対する考え方が，これまで以上に有意義なものとして受け取られるようになった。一度実施した企業が次回の受入れを断ることもなく，むしろ快く引き受けてくださるようになり，受入企業の確保もスムーズに進むようになった。また，生徒の参加意欲も高まり，今後，更に充実したインターンシップが実施できるよう努力していきたい。

【本事例活用に当たっての留意点】

幅広い企業とのつながりや信頼関係，整備された情報関連機器を活用するなど，工業高校のもつメリットを最大限に生かした実践である。これまでの取組の実績の上に立って，インターンシップ実施に係る労力の大幅削減に成功し，円滑かつ効率的に運営・実施されている点は，今後，インターンシップがより多くの学校・学科に定着していく上で，大きな示唆を与えてくれるものであろう。また，学校設定教科・科目として位置付けて単位認定を行っていること，さらには，それが選択科目であるにもかかわらず8割にも及ぶ生徒が履修していることなど，教育課程への位置付けの多様性とともインターンシップが生徒のニーズに合致した魅力と豊かな可能性をもつことを示す事例でもある。新規高卒者への求人が減少し，厳しい就職環境の中，生徒の進路意識を高揚させ，就職活動の活性化や就職決定状況の改善に結びつけていく工夫の参考にしたい。